

半場道子 著

慢性痛のサイエンス 脳からみた痛みの機序と治療戦略

高橋和久（千葉大大学院前教授・整形外科学）

半場道子先生のご講演は何度か拝聴したことがある。痛みに関する脳科学、神経科学についての最新のお話で、大変興味深くお聞きした。しかしながら、あまり馴染みのない脳の解剖用語や限られた講演時間の中で、先生が話されたことを全て理解できたとはいえなかった。一度、先生の知識と考え方をまとまった形でうかがいたいと願っていたところ、書籍執筆のお話をお聞きし、上梓されたらぜひ拝読したいと申し上げた。本書を拝受後、3日ほどで読ませていただいた。

本書は、慢性痛を侵害受容性、神経障害性、非器質性に分け、そのメカニズムについて脳科学、神経科学の観点から最新の知見を紹介している。近年の機能的脳画像法や基礎医学的な研究成果を基に、脳を中心とする神経系のダイナミックな機能を解説している。さらに、解明されたメカニズムを基に慢性痛に対する各種の治療法と、その科学的根拠について述べている。それぞれ興味深い内容であるが、中でも“骨格筋は分泌器官であり、筋活動は慢性痛の軽減に有効である。また、筋活動により多くの疾患の原因となる慢性炎症を抑制でき、疾患の予防につながる”という事実は大変興味深く、日常診療でも患者さんの指導に役立てたい知識である。

本書を読み始めると、聞きなれない解剖用語や専

門用語が多く現れ、読者は戸惑うかもしれない。しかし、気にせず読み進められるのがよい。重要な用語については繰り返し述べられ、そのつど意義が解説される。読み進めるうちに自然とその用語が記憶に残り、読者はその意味を多面的に理解することができる。本書は極めて高度の科学的内容を解説しているが、冷徹な科学書ではなく、随所に半場先生の人間に対する哲学ともいえるべき優しい思いが述べられている。本書は繰り返し読むことにより、記載内容をより深く理解できる書籍である。

インターネットなどにより、多くの情報が散乱する現代において、精査選択された情報をコンパクトにまとめた書籍の役割は大きい。本書にはそれぞれの記載の根拠となった文献が添付されており、とくに興味ある内容については検索が可能である。半場先生のご努力に改めて敬意を表する。

本書は、整形外科、脳神経外科、神経内科、麻酔科、ペインクリニック科、リハビリテーション科ほか、慢性疼痛患者に関与するあらゆる医療関係者、さらに基礎研究者にとって有用な書籍である。ぜひ、ご一読をお勧めする。

（A5判 頁204 2018年 定価3,400円＋税[ISBN978-4-260-03428-9] 医学書院刊）